

 **YAMAHA**

MODULATION DELAY
UD-Stomp

取扱説明書



安全へのこころがけ



注意

感電の恐れあり
キャビネットをあけるな



このマークは、機器の内部に絶縁されていない「危険な電圧」が存在し、感電の危険があることを示しています。(本体に印刷されています。)

火災・感電・人身傷害の危険を防止するには ~以下の指示を必ず守ってください~

絵表示に
ついて

この「安全へのこころがけ」は製品を安全に正しくお使いいただき、お客様や他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示を使って説明しています。絵表示の意味をよく理解してから、本文をお読みください。



注意(危険・警告を含む)を促す内容があることを告げるものです。



禁止の行為を告げるものです。



行為を強制したり指示する内容を告げるものです。



警告

この表示を無視して誤った取扱いをすると、人が死亡又は重傷を負う危険の恐れがある内容を示しています。



この機器を使用する前に以下の指示と取扱説明書をよく読んでください。



この機器を分解したり、改造したりしないでください。火災、感電の原因となります。



修理/部品の交換などで、取扱説明書に書かれていない以外のことは、絶対にしないでください。必ずサービスセンターに相談してください。



次のような場所での使用や保存はしないでください。火災、感電の原因となります。
温度が極端に高い場所(直射日光の当たる場所、暖房機器の近く、発熱する機器の上など)
温度が極端に低い場所
水気の近く(風呂場、洗面台、濡れた床など)や湿度の高い場所
ホコリの多い場所
振動の多い場所
特に自動車内は直射日光などにより非常に高温となります。
この機器を車内に放置しないでください。



本体の上に花瓶や薬品など液体の入ったものを置かないでください。火災、感電、故障などの原因となります。



本機は国内仕様です。電源アダプターは必ずAC100Vの電源コンセントに接続して使用してください。エアコンの電源などAC200Vのものがあります。誤って接続すると火災、感電、故障などの原因となります。



付属の電源アダプター(AC-10)以外は使用しないでください。(異なった電源アダプターを使用すると故障、発熱、発火などの原因となります。)



電源コードをストーブなどの熱器具に近づけたり、無理に曲げたり、重いものを乗せたり、傷つけたりしないでください。電源コードが破損し、感電や火災の原因となります。



この機器を単独で、あるいはヘッドフォン、外部アンプ、外部スピーカーと組み合わせて使用した場合、設定によっては、永久的な難聴になる程度の音量になります。大音量や不快な程の音量で、長時間使用しないでください。万一、聴力低下や耳鳴りを感じたら、専門の医師に相談してください。



この機器に、異物(燃えやすいもの、硬貨、針金など)や液体(水やジュースなど)を絶対に入れないでください。感電や火災の原因となります。



次のような場合は、直ちに電源スイッチを切り電源アダプターの電源プラグをコンセントから抜いて、サービスセンターに修理を依頼してください。
電源アダプターのコードやプラグが破損した場合
使用中に音が出なくなったり異常なおいや煙が出た場合
異物が内部に入ったり、液体がこぼれた場合
機器が雨などで濡れた場合
機器に異常や故障が生じた場合



ぐらついた台の上や傾いた所など、不安定な場所に置かないでください。また、過度に積み重ねての使用はしないでください。落ちたり倒れたりして、けがの原因となります。



長期間使用しないときや落雷のおそれがあるときは、必ずコンセントから電源アダプターのプラグを抜いておいてください。

⚠ 注意

この表示を無視して誤った取扱いをすると、人が障害を負ったり、財産が損害を受ける危険の恐れがある内容を示しています。



電源プラグを抜くときは、電源アダプターのコードを持たずに、必ず電源アダプター本体を持って引き抜いてください。電源アダプターのコードが破損して、感電や火災が発生するおそれがあります。



タコ足配線はしないでください。音質が劣化したり、コンセント部が異常発熱して発火したりすることがあります。



本機とパワーアンプなどの他の機器とを接続する際は、必ずすべての機器の電源を切った上で行なってください。スピーカーなどの破損や故障の原因となります。



本機の電源を入れる際は、必ずOUTPUTコントロールを0にした状態で行なってください。感電または機器の損傷のおそれがあります。



雑音を生ずる装置（モーター、調光器など）や消費電力の大きな機器とは別のコンセントをお使いください。



本機の近くにパワーアンプなどの大型トランスを持つ機器がある場合、ハムやうなりが生じることがあります。その場合は、本機との向きや距離を変えてみてください。また、雑音の原因となるネオンや蛍光灯からは十分に離してご使用ください。



テレビやラジオ、スピーカーなど他の電気製品の近くで使用しないでください。デジタル回路を多用しているため、テレビやラジオなどに雑音が生じたりテレビ画面に色ムラを生じる場合があります。



本体のお手入れは、必ず柔らかい布で乾拭きしてください。ベンジンやシンナー、洗剤、化学ぞうきんなどは絶対に使用しないでください。また、本体上にビニール製品やプラスチック製品などを置かないでください。本体の変色や変質の原因になります。



物をぶつかけたり、落としたりの乱暴な取り扱いや、ボタンやスイッチ、入出力端子などに無理な力を加えたりしないでください。製品に悪い影響を与え、性能を劣化させます。また、思わぬけがの原因となります。



本体を移動するときは、必ず電源アダプターコードなどの接続ケーブルをすべて外した上で行ってください。コードをいためたり、お客様が転倒したりするおそれがあります。



手入れをするときは、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。また、濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電のおそれがあります。



電源プラグにホコリが附着している場合は、ホコリをきれいに拭き取ってください。そのままの使用は火災、感電、故障などの原因となります。

不適切な使用や改造により故障した場合の保証は致しかねます。また、データが破損したり失われたりした場合の保証は致しかねますので、ご了承ください。

使用後は、必ず電源を切りましょう。

バックアップバッテリーについて

UD-Stompには、電源コードがコンセントから外されても内部のデータを記憶するために、メモリー保持用のバックアップバッテリー（リチウム電池）が内蔵されています。バックアップバッテリーが消耗すると内部のデータは消えてしまいますので、大切なデータはあらかじめヤマハMIDIデータファイラー-MDF3などの外部機器に保存するか（25ページ）、データ内容をメモしておいてください。バックアップバッテリーは、3年を目安に交換することをお勧めします。バックアップバッテリーの交換は、お買い上げの楽器店または巻末のヤマハ電気音響製品サービス拠点にお申し付けください。

- ・ バックアップバッテリーは自分で交換しないでください。
- ・ バックアップバッテリーは子供の手が届くところに置かないでください。
- ・ ディスプレイに「E 5」と表示されると、バックアップバッテリーの消耗によりデータ内容が失われている可能性があります。
- ・ 異常動作、故障修理などの際、データ内容が失われる可能性があります。

音楽を楽しむエチケット



これは日本電子機械工業会「音のエチケット」キャンペーンのシンボルマークです。

楽しい音楽も時と場所によっては大変気になるものです。隣近所への配慮を十分にいたしましょう。静かな夜間には小さな音でもよく通り、特に低音は床や壁などを伝わりやすく、思わぬところで迷惑をかけてしまうことがあります。適度な音量を心がけ、窓を開けたりヘッドフォンをご使用になるのもひとつの方法です。

ヘッドフォンをご使用になる場合には、耳をあまり刺激しないよう適度な音量でお楽しみください。

このたびは、ヤマハUD-Stompをお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。

本製品の優れた機能をフルに発揮させると共に、末永くご愛用いただくため、ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みください。また、お読みになった後も不明な点が生じた場合に備えて、保証書とともに大切に保管してください。

目次

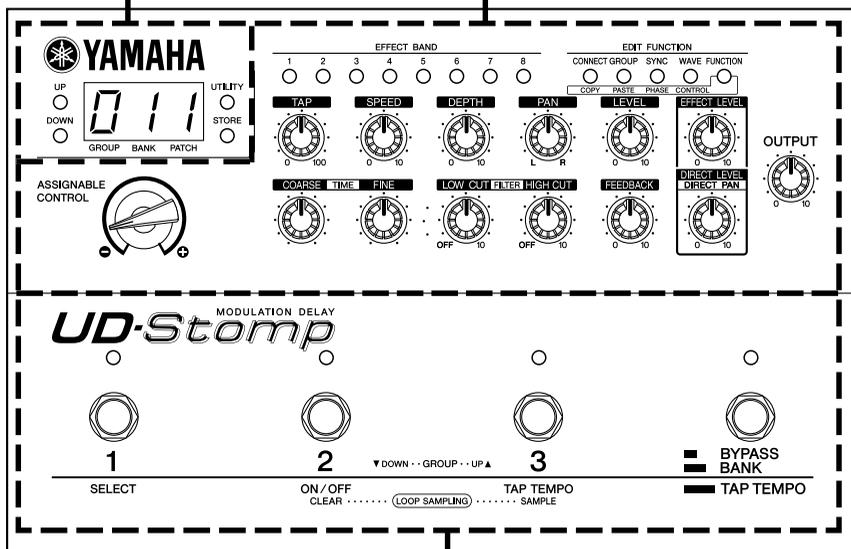
各部の名称と機能	5	パッチの選択と保存	18
トップパネル	5	パッチを切り替えてみよう	18
リアパネル	8	パッチを保存しよう(ストア).....	20
接続	9	便利な機能	21
電源の準備	9	外部コントロールの設定	23
UD-Stompの接続	9	ユーティリティモード	24
ヘッドフォンの接続	10	ユーティリティモードについて	24
デジタル出力	10	MIDI機能	24
EXPペダルの接続	10	外部コントロール設定	25
MIDI機器の接続	10	EXPペダル設定	26
UD-Stompを使ってみよう	11	エラーメッセージ	27
準備	11	故障かな?と思ったら	27
・ エフェクトバンドの選択	12	仕様	28
・ デレイタイムの設定	12	MIDIインプリメンテーションチャート	30
・ フィードバックの設定	13	サービスについて	32
・ フィルターの設定	13		
・ パンの設定	13		
・ デレイレベルの設定	13		
・ タップの設定	13		
・ モジュレーションの設定	14		
・ 接続 CONNECT の設定	14		
・ グループ(GROUP)の設定	15		
・ シンク(SYNC)の設定	16		
・ 波形(WAVE)の設定	16		
・ フェイズ(PHASE)の設定	16		
・ エフェクトとダイレクト音の音量設定	17		
・ ダイレクト音のパンの設定	17		
・ 出力音量の設定	17		

各部の名称と機能

トップパネル

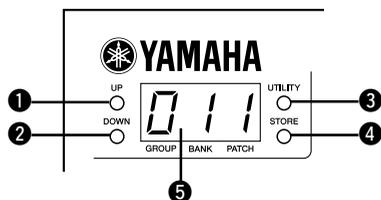
ディスプレイ&メインパート

コントローラーパート



フットスイッチパート

ディスプレイ&メインパート



① アップボタン(UP)

② ダウンボタン(DOWN)

パッチ番号を+1/-1します。押し続けるとグループ番号を+1/-1できます。[UP]と[DOWN]を同時に押すと、ユーザープリセットのエリア切り替えができます。

また、ツマミの位置とパッチデータの値の関係をランプの点滅で表わします。

③ ユーティリティボタン(UTILITY)

ユーティリティモードに入ります。(24ページ)

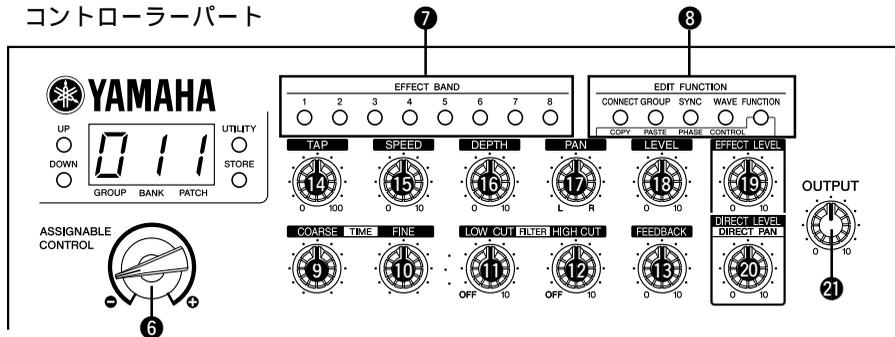
④ ストアボタン(STORE)

ストアモードに入ります。(20ページ)

⑤ ディスプレイ

メモリーナンバーやパラメーター設定値などを表示します。

コントローラーパート



⑥ アサインابلコントロール (ASSIGNABLE CONTROL)

エフェクトパラメーターのコントローラー⑨～⑳の機能を、このつまみにアサインすることができます。(23ページ)

⑦ エフェクトバンドボタン (EFFECT BAND 1～8)

エフェクトバンド1～8それぞれのON/OFFおよび、エディットするエフェクトバンドを選びます。

- * エフェクトON OFFにするには、ディスプレイにOFFと表示されるまでボタンを押し続けます。
- * このボタンを押す時間間隔でディレイタイムを設定することもできます。(12ページ)

ランプの点灯でそのエフェクトバンドの設定状況を表わします。

- ・ ランプの点灯: エフェクトON
- ・ ランプの消灯: エフェクトOFF
- ・ ランプの点滅(高速): エディット中
- ・ ランプの点滅(低速): 入力スイッチOFF (21ページ)

- * エフェクトバンドがONの場合、[FUNCTION]と共にエフェクトバンドボタンを押すと、そのバンドの入力スイッチをON/OFFできます。ただし、グループを設定している場合は、グループ先頭のエフェクトバンドでのみON/OFF設定可能です。

ユーティリティモードでは、フットスイッチの機能やMIDI機能など、設定する項目を選びます。

⑧ エディットファンクションボタン (EDIT FUNCTION)

複数のエフェクトバンド間における、接続、グループ化、同期、モジュレーション波形などのパラメーターを設定するためのスイッチです。

- ・ CONNECT: エフェクトバンド間の接続
- ・ GROUP: 複数のエフェクトバンドのグループ化
- ・ SYNC: 複数のエフェクトバンド間での変調スピードの同期
- ・ WAVE: 使用する変調波形の選択

- ・ FUNCTION: このボタンと同時に他のボタンやコントローラーを操作することで、別機能(COPY, PASTE, PHASE, CONTROL)設定、DIRECT PANを呼び出します。

ランプの点灯で、現在選ばれているエフェクトバンドにおけるパラメーター設定状況を表わします。

以下⑨～⑱のコントローラーは、エフェクトバンドごとに、そのパラメーターを設定します。エフェクトバンドスイッチで選択されているバンドがエディット対象となります。また、グループを設定している場合、⑨～⑱のコントローラーは、グループ先頭のエフェクトバンドでのみ設定可能です。

⑨ ディレイタイムコントロール: コース (TIME COARSE)

⑩ ディレイタイムコントロール: ファイン (TIME FINE)

ディレイタイムを設定します。TIME COARSEでおおまかな設定を、TIME FINEで細かい設定を行ないます。

⑪ ローカットフィルターコントロール (LOW CUT FILTER)

ローカットフィルターのカットオフ周波数を設定します。カットオフ周波数より低い周波数成分をカットします。

左に回しきる(OFF)とフィルターはオフ。右に迴すほどカットオフ周波数が高くなります。

⑫ ハイカットフィルターコントロール (HIGH CUT FILTER)

ハイカットフィルターのカットオフ周波数を設定します。カットオフ周波数より高い周波数成分をカットします。

左に回しきる(OFF)とフィルターはオフ。右に迴すほどカットオフ周波数が低くなります。

13 フィードバックコントロール(FEEDBACK)
ディレイ音の繰り返し回数を設定します。

14 タップコントロール(TAP)
ディレイループからディレイ音を取り出すタイミングを設定します。
パラメーター値はディレイタイムの設定値に対するパーセントで表示されます。

15 スピードコントロール(SPEED)
モジュレーションの変調スピードを設定します。
SYNC設定時は、SYNC元との位相差を設定します。

16 デプスコントロール(DEPTH)
モジュレーションの効果の深さ(デプス)を設定します。

17 パンコントロール(PAN)
ディレイ音のステレオ定位を設定します。

18 ディレイレベルコントロール(LEVEL)
ディレイ音のレベルを設定します。

* 左に回しきる(00)と、ディレイ音は聞こえなくなります。

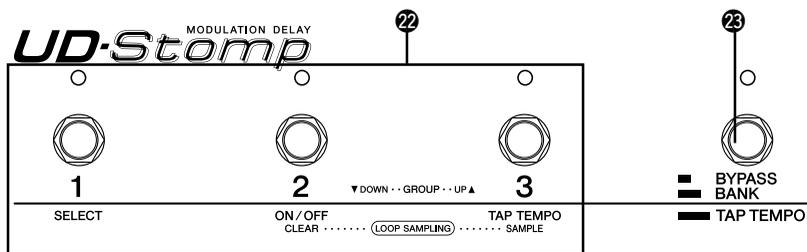
以下**19**~**21**のコントローラーは、エフェクトバンド1~8の、トータルのパラメーターです。
エフェクトバンドが選択されていない状態でも設定可能です。

19 エフェクトレベルコントロール
(EFFECT LEVEL)
トータルのエフェクトレベルを設定します。

20 ダイレクトレベル/ダイレクトパンコントロール
(DIRECT LEVEL/DIRECT PAN)
ダイレクト音の出力レベルを設定します。
FUNCTIONスイッチを押しながらこのツマミを廻すと、ダイレクト音のステレオ定位を設定します。

21 アウトプットレベルコントロール(OUTPUT)
UD-Stompの出力端子(OUTPUT, PHONES)から出力する信号のレベルを調整します。

フットスイッチパート



22 フットスイッチ1, 2, 3

現在選ばれているグループ/バンク内でのパッチ(1/2/3)を切り替えます。選択されているパッチ番号のランプが点灯します。点灯中のスイッチを押してランプを消灯させると、エフェクトがOFFになります。

また、BANKスイッチの設定により、エリア/グループ/バンク/パッチの切り替えや、タップテンポ、サンプリングにも使います。

* フットスイッチ1, 2, 3でエフェクトをOFFにした場合、それまでのディレイ成分は残ります。バンクスイッチでバイパスにした場合、ディレイ音は瞬時に消えます。

23 バンクスイッチ(BYPASS/BANK/TAP TEMPO)

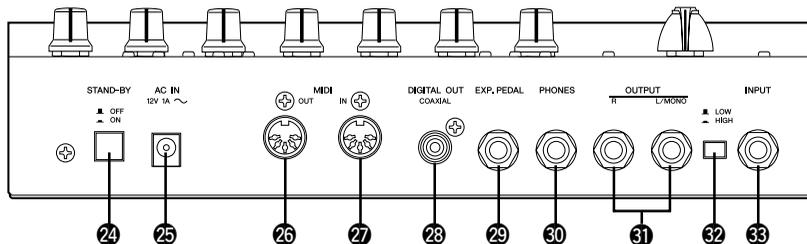
・スイッチを押してすぐに離す:エフェクトバンドすべてをバイパスし、ダイレクト音のみを出力します。バイパスON時にランプが点灯します。

* バイパス状態では入力された信号がそのまま出力されます(ダイレクトレベル、ダイレクトパンの設定も効きません)。

・フットスイッチ1~3のランプがすべて点灯するまでスイッチを押し続ける:フットスイッチ1~3でエリア/グループ/バンクの切替ができます。(19ページ)

・ディスプレイに"ARP"と表示されるまでスイッチを押し続ける:フットスイッチを押す時間間隔でディレイタイムを設定できます。また、ループサンプリングもできます。(21ページ)

リアパネル



24 電源スイッチ (STAND-BY ON/OFF)

本機の電源スイッチです。

* スピーカーの保護のため、電源のON/OFF切り替えは、OUTPUTツマミ⑩を「0」にしてから行ってください。

25 電源アダプター端子 (AC IN 12V 1A)

付属の電源アダプターをこの端子に接続します。

* 付属の電源アダプター以外は、絶対に接続しないでください。異なった電源アダプターを使用すると、故障、発熱、発火などの原因となります。

26 MIDI OUT 端子

UD-Stompのメモリー内のデータや、コントロールチェンジ、プログラムチェンジなどのMIDIデータを出力する端子です。(25ページ)

27 MIDI IN 端子

MIDIフットコントローラー等のMIDI機器の操作で、UD-Stompのパッチを切り替えたり、ボリュームや各種エフェクトのコントロールを行なうことができます。(19ページ)

また、外部に保存したメモリー内容を再びUD-Stompのメモリーに読み込むこともできます。(25ページ)

28 デジタル出力端子 (DIGITAL OUT)

UD-Stompの出力をデジタルデータで出力する端子です。

デジタルミキサーなど、デジタル入力端子(コアキシャル)を持つ機器と接続します。(10ページ)

29 EXPペダル端子 (EXP. PEDAL)

ヤマハFC-7などのフットコントローラー(エクスプレッションペダル 別売)をこの端子に接続して、UD-Stompの各パラメーターをコントロールすることができます。(23, 25, 26ページ)

30 ヘッドフォン端子 (PHONES)

ここにヘッドフォン(別売)を接続すれば、夜間など外部に音を漏らさずに練習することができます。

(10ページ)

* ヘッドフォンを接続していても、OUTPUT端子⑪、DIGITAL OUT端子⑫からの出力は出ます。

31 出力端子 (OUTPUT R, L/MONO)

UD-Stompのアナログ出力端子です。パワーアンプ+スピーカーセットやギターアンプ、ミキサーなどの入力端子と接続します。(9ページ)

* モノラルの機器と接続する場合は、L/MONO側端子と接続します。

32 入力レベルスイッチ (LOW/HIGH)

33 入力端子 (INPUT)

UD-Stompの入力端子です。ギターや電子楽器などをここに接続します。楽器の出力レベルに合わせて、LOW/HIGHを切り替えます。

* 楽器の接続は、電源スイッチを切った状態で行なってください。

接続

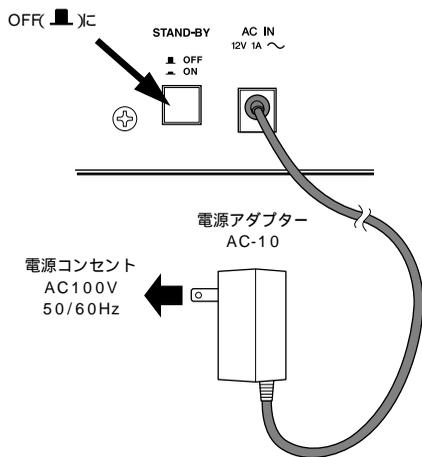


感電と機器の損傷を防ぐため、UD-Stompの各入出力端子との接続は、必ずUD-Stompおよび各機器の電源を切った状態で行なってください。

電源の接続

UD-Stompは、付属の専用電源アダプター(AC-10)で動作します。

1. UD-Stompの電源スイッチ(STAND-BY)を OFF ()にします。
2. 電源アダプターのプラグをUD-StompのAC IN端子に接続します。
3. 電源アダプターを電源コンセント(AC 100V, 50/60Hz)に接続します。



電源アダプターは、必ず付属のAC-10をお使いください。他の電源アダプターを使用した場合、故障、発熱、発火などの原因となり、大変危険です。



電源は、必ずAC100Vを使用してください。



付属の電源アダプターAC-10は、UD-Stomp専用です。他の機器に使用しないでください。

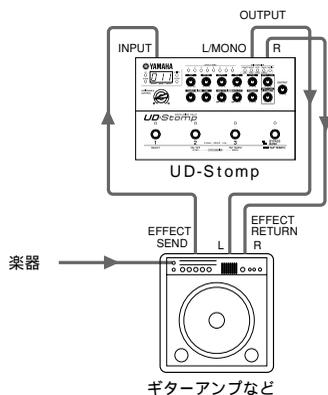
UD-Stompの接続

UD-Stompはディレイユニットですので、他のエフェクトと共に使う場合は、歪み系エフェクトなどより後に接続します。ギターアンプやミキサーなど、エフェクトSEND/リターン端子がある場合は、そこに接続することをお勧めします。

入力レベルスイッチは、接続する機器の出力レベルに応じて(出力レベルが高い場合はLOW、低い場合はHIGH)設定します。

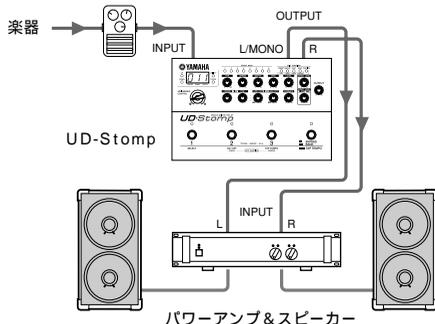
また、効果を十分に発揮するために、OUTPUT端子にはステレオの機器を接続してお使いください。モノラル入力の機器と接続する場合は、OUTPUTのL/MONO端子と接続します。

エフェクトSEND/リターン間に接続する場合



楽器の後に接続する場合

ディストーションなど

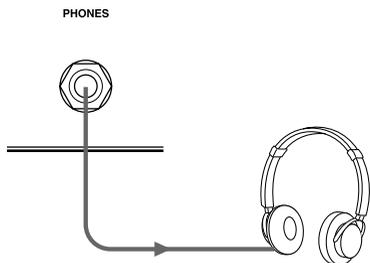


ヘッドフォンの接続

UD-StompのPHONES端子(ステレオ標準)にヘッドフォンを接続すれば、夜間など外部に音を漏らさずに練習することができます。

ヘッドフォンの音量はOUTPUTツマミで調節します。

* ヘッドフォンを接続していても、OUTPUT端子、DIGITAL OUT端子からの出力は出ます。

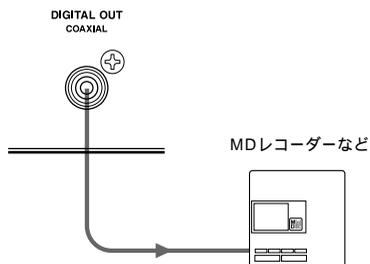


ヘッドフォンをご使用になる場合は、耳をあまり刺激しないよう適度な音量に調節してお楽しみください。

デジタル出力

UD-Stompには、デジタル出力端子(COAXIAL, 44.1 kHz)が装備されていますので、デジタルミキサーやMDレコーダーなどのデジタル入力端子と接続することができます。

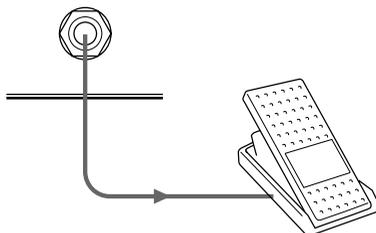
* DIGITAL OUT端子の出力レベルは、OUTPUTツマミでは調整できません(固定)。



EXPペダルの接続

UD-StompのEXP. PEDAL端子にヤマハFC-7などのフットコントローラー(エクスプレッションペダル)を接続すると、UD-Stompの各パラメーターを足元でコントロールすることができます。(23, 25, 26ページ)

EXP. PEDAL



MIDI機器の接続

MIDI IN/OUT端子を使って外部のMIDI機器とMIDI情報のやりとりを行なうことができます。

UD-Stompのデータを、ヤマハMIDIデータファイラーMDF3などのMIDI機器に保存(パルクダンプ)したり、またそのデータをUD-Stompへ読み込んだりすることができます。

また、MIDIフットコントローラー等の操作で、UD-Stompのパッチの選択、各パラメーターのコントロールを行なうこともできます。逆に、UD-Stompから外部MIDI機器をコントロールすることもできます。MIDIを使っの各機能については、『ユーティリティモード』(24ページ)をご覧ください。

UD-Stompを使ってみよう

UD-Stompは、まったく同じ8つのディレイ回路を内蔵したエフェクトユニットです。それら複数のディレイ回路を直列に接続して複雑なサウンドを作ったり、一つのディレイ回路として用いることによってより長いディレイを構築したり、回路ごとにディレイを取り出して複雑なサウンドを作るなど、さまざまなアイデアでオリジナルなサウンドを作ることができます。ここでは、プリセットプログラムを使って実際にその音を確認しながら、各パラメーターやファンクションについて理解していきましょう。

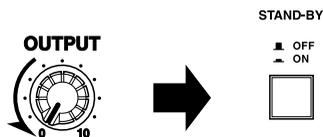
準備

1. 楽器、アンプ、ヘッドフォンなどとUD-Stompを接続します。(9, 10ページ参照)

接続は、必ず各機器の電源を切った状態で行ないます。

2. OUTPUTツマミを“0”の位置にしてから、電源スイッチ(STAND-BY)をON(▲)にします。

❗ OUTPUTツマミを上げた状態で電源を入れると、接続しているアンプ、スピーカー、ヘッドフォンなどの機器を損傷したり、大音量により耳を痛めたり、思わぬ事故を起こしたりする原因となります。



3. ディスプレイに“0 1 1”のように3ケタの数字が表示されます。



この数字は、(グループ番号：0、バンク番号：1、パッチ番号：1)のパッチプログラムが呼び出されていることを表わしています。

この、ディスプレイにパッチプログラムの番号が表示されている状態をプレイモードと呼びます。プレイモードでは、パッチを選んで演奏したり、パラメーターをエディットしたりすることができます。

まずは、このパッチプログラムで音を出して、音量を調整しましょう。楽器を演奏して、OUTPUTツマミを右へ回して適当な音量にします。

OUTPUT



4. 何も設定されていないパッチ“0 1 1”を呼び出します。

パネル左上にある[DOWN]ボタンを押し続けると、GROUPの表示が1ずつ減ります。行き過ぎた場合は、[UP]ボタンを押し続けると1ずつ増えます。また[UP][DOWN]ボタンを1回押すごとにパッチは1ずつ増加/減少します。

それでは、ディレイを設定していきましょう。

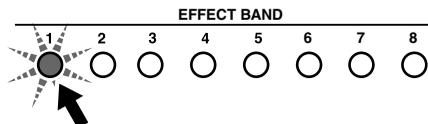
エフェクトバンドの選択

まず、ディレイ回路を1つ選んでパラメーターを設定してみましょう。

[EFFECT BAND 1 ~ 8]のボタンで、8つのディレイ回路のON/OFFを切り替えます。

1. [EFFECT BAND 1]ボタンを押して、エフェクトバンド1を選びます(ボタンのランプが高速で点滅)。

* EFFECT BANDのランプの高速点滅は、そのバンドがエディット中であることを表わします。



ディレイタイムの設定

ディレイタイムを設定しましょう。

TIME COARSE(おおまかな設定)とTIME FINE(微調整)の2つのつまみで設定します。

2. ここでは250msecのディレイを設定してみましょう。

TIME COARSEつまみを回して、ディスプレイに"200."と表示させます。

* ディスプレイ表示の単位はmsecです。
ドットの表示が小数点の位置を表わします。

例) 200.=200msec

1000msec以上の場合、表示×10が設定値となります。

例) 123=1230msec

つまみを動かした際、ディスプレイに"002."と点滅表示され[DOWN]ランプが点滅した場合は、現在のつまみの位置が、設定されているパラメーターの値と異なっていることを表わしています。一度つまみを左に回しきってから、右へ回して設定してください。

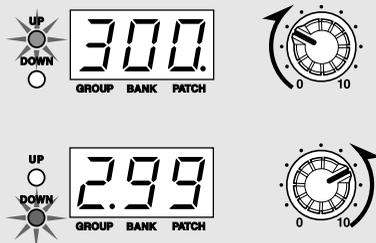
パネル上の各つまみ位置は、実際に鳴っているサウンド(パッチで設定されているセッティング)とは必ずしも同じではないので、次のルールに従ってつまみを回してください。

- つまみを動かしたときに[UP]のランプが点滅したらつまみを右(10方向)に、[DOWN]

のランプが点滅したらつまみを左(0方向)に回してください。

このときディスプレイにはパッチに設定されているそのつまみの値(パッチデータ)が点滅表示されます。

* この点滅表示の状態では、つまみを動かしてもディスプレイ表示、サウンド共に変わりません。



- つまみを動かして、パッチデータの値の位置に到達すると、ディスプレイと[UP]/[DOWN]ランプの点滅は止まり、実際のつまみ位置の値がディスプレイに表示されます。サウンドもつまみ位置に従って変わります。

* つまみを動かすのをやめてから約2秒間は設定値を表示し、通常表示に戻ります。

- 一度設定値を変更できる状態になると、そのつまみをどの方向に回しても、つまみ位置の値がディスプレイとサウンドに反映されます。

このしくみはOUTPUT以外のすべてのつまみで共通です。

3. 次にTIME FINEつまみを回して、ディスプレイに"250."と表示させます。"200."と点滅表示される場合は、手順2と同様に一度つまみを左に回しきってから、右へ回して設定してください。

* 1つのエフェクトバンドにつき最長696msecのディレイタイム設定が可能です。また、グループ設定により、最長5890msec(8バンド連続)のディレイタイム設定が可能です。(15ページ)

* ディレイタイムの設定は、エフェクトバンド選択後に[EFFECT BAND 1 ~ 8]ボタンを2回押す時間間隔でも設定できます。

* フットスイッチを2回押す時間間隔でディレイタイムを設定することもできます。(21ページ)

フィードバックの設定

今の設定では、原音から250msec後にディレイ音が1回鳴るだけです。フィードバックのパラメーターを設定して、繰り返しディレイ音が鳴るようにしましょう。

4. FEEDBACKツマミを回して、“100”に設定してみましょう。ディレイ音は減衰せずにいつまでも繰り返します。

FEEDBACKの設定を小さくすると、ディレイ音は減衰し、繰り返しの回数も少なくなります。

ここでは、“50”に設定しておきましょう。

フィルターの設定

ディレイ回路の中には、高い周波数成分をカットするHCF(ハイカットフィルター)と、低い周波数成分をカットするLCF(ローカットフィルター)が入っています。これらのフィルターはディレイループの中に入っているため、ディレイが繰り返すたびに周波数成分の減衰が深くなります。

5. LOW CUT FILTERツマミ、HIGH CUT FILTERツマミを回して、それぞれの効果を試してみてください。

* いずれもツマミ位置10(10.0)でカットオフ周波数=1kHz。ツマミ位置0ではOFF(0FF)。

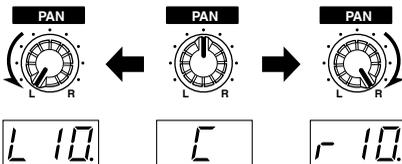
* いずれも最初のディレイ音に対しても効果します。

これらのフィルターを使うと、アナログディレイのシミュレーションなどができます。効果を試したら、それぞれの設定を“OFF”に設定して、次へ進みましょう。

パンの設定

ディレイ音のステレオでの定位をパンといいます。下図の用にPANツマミの位置で定位を左(L 10.0)~中央(C)~右(R 10.0)の間で設定します。

6. PANツマミを回して、ディレイ音が実際に左右に移動することを確認してみてください。効果を試したら、“C”に設定して、次へ進みましょう。



ディレイレベルの設定

ディレイ音のレベルを、LEVELツマミで調整しましょう。

7. 効果が確認しやすいよう、まずFEEDBACKツマミを左に回して“00”に設定しておきます。LEVELツマミを回して、ディレイ音の音量を変えてみましょう。右に回しきると(100)と原音とディレイ音のレベルが同じになります。左に回しきると(00)とディレイ音は聞こえなくなります。

タップの設定

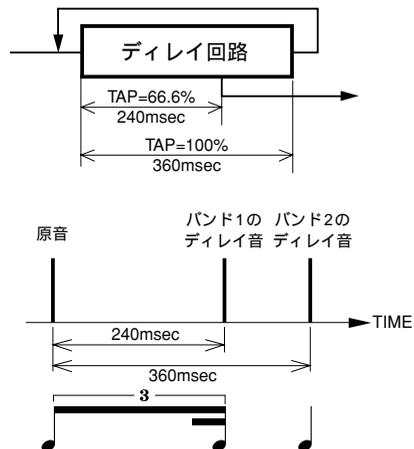
タップとは、ディレイループからディレイ音を取り出すタイミングのことです。実際に耳で聞いてその効果を確認しましょう。

8. 効果が確認しやすいパッチ“9.12”を、[UP]ボタンを押して呼び出します。

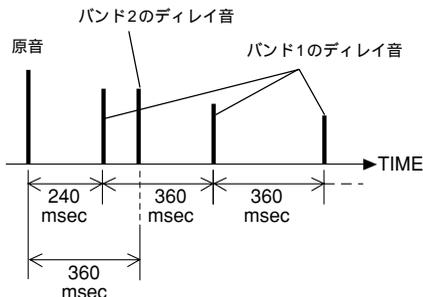
このパッチでは、バンド1とバンド2にそれぞれ360msecのディレイが設定されています。原音よりもディレイ音の方が大きく聞こえるのは、原音と同じレベルのディレイ音が二つ同時に聞こえるからです。

9. [EFFECT BAND 1]ボタンを押し、TAPツマミを回して、バンド1のタップを変えてみましょう。

“55.5”(付近)に設定すると、シャッフルのリズムになります。これは、バンド1のディレイ音が360msecの3分の2(66.6%)の240msecで出力されたからです。



- 10.** ここでバンド1のFEEDBACKを“5.0”に設定してみましょう。すると、最初のディレイ音のみが240msecで、その後は360msec間隔で繰り返されます。



- 11.** 次にバンド2のFEEDBACKも“5.0”に設定してみましょう。[EFFECT BAND 2] ボタンを押し、FEEDBACKをツマミを回します。するとシャッフルのリズムが繰り返されます。
- 12.** これでバンド1のPANを左いっぱい(L 10.)、バンド2のPANを右いっぱい(R 10.)に設定してみてください。ステレオピンポンディレイの完成です。

モジュレーションの設定

ディレイタイムにモジュレーション(変調)をかけることで、ディレイ成分のピッチを変動させ、コーラスやフランジャーのような効果を持ったディレイ音を作ることができます。

- 13.** もう一度パッチ“9.11”を呼び出します。
- 14.** [EFFECT BAND 1] ボタンを押し、TIME COARSEツマミでディレイタイムを“600”に設定します。
- 15.** SPEEDツマミを“4.0”に、DEPTHツマミを“100”に設定し、音を聞いてみましょう。ディレイ音のピッチが上下しているのがわかるでしょう。これがモジュレーション効果です。
- 16.** ディレイタイムを5~20msec位に設定し、SPEED(ピッチを揺らす速さ)とDEPTH(ピッチを揺らす深さ)を調整することで、さまざまなコーラス効果を得ることができます。また、複数のバンドを使ったり、バンドで定位

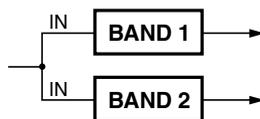
を左右に変えたりすることで、よりリッチな効果を作り出すこともできます。いろいろとトライしてみてください。

- 17.** ディレイタイムをコーラスより短く(5msec以下)に設定し、SPEEDとDEPTHを調整すると、フランジャー効果を得ることができます。さらに、FEEDBACKを上げると、より深いフランジャーにすることができます。

接続(CONNECT)の設定

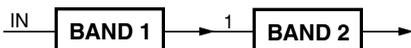
8つのエフェクトバンドの接続を設定してみましょう。複数のエフェクトバンドを直列に接続したり、並列に接続することで、さまざまなディレイを構築することができます。

- 18.** パッチ“9.13”を呼び出します。このパッチは2つのディレイ回路(バンド1とバンド2)が並列に接続されています。バンド1は600msecの長いディレイ、バンド2は80msecの短いディレイで、どちらもFEEDBACKは0です。[EFFECT BAND 1] ボタンを押し(バンド1を選び)、[CONNECT] ボタンを押すと“in”と表示されます。これはバンド1のディレイ回路の入力がUD-StompのINPUTからのものであることを表わしています。バンド2も同様に“in”に設定されています。バンド1とバンド2は、下図のように接続されています。



音を出してみると、短いディレイ音と長いディレイ音が1回ずつ聞こえます。

- 19.** 今度はバンド1とバンド2を直列に接続してみましょう。[EFFECT BAND 2] ボタンを押した後、[CONNECT] ボタンを押しながら[UP] ボタンを押して“1”と表示させます。これで、バンド2の入力にバンド1の出力信号(ディレイ音と原音のミックス)が設定されました。バンド1とバンド2が直列に接続されたわけです。

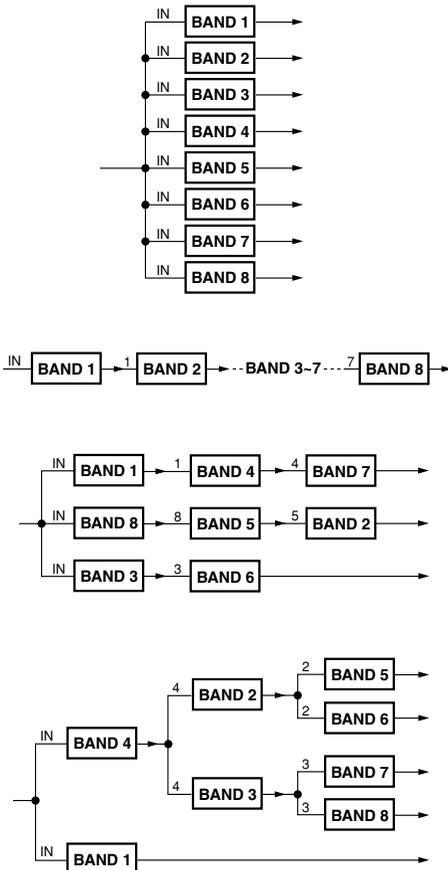


音を出してみると、バンド1の出力である原音と長いディレイ音それぞれに短いディレイがかかっているのがわかります。

- 20.** それでは、この2バンドのディレイ回路で複雑なディレイを作ってみましょう。バンド2のディレイタイムを設定し、両バンド共にFEEDBACKを上げます。直列接続のため、ディレイが繰り返されるごとにディレイ音が複雑になっていくことがわかります。それぞれのバンドのディレイタイムを変えて、効果を試してみてください。

* もちろん、並列と直列を組み合わせた接続もできます。さらに、バンド間でモジュレーションを同期させたり(16ページ)して、複雑なディレイ効果を得ることができます。

接続例



グループ(GROUP)の設定

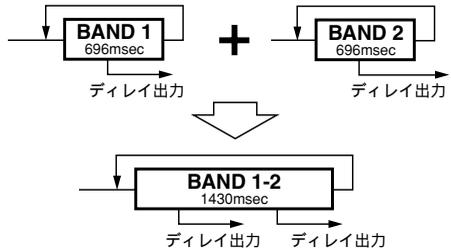
グループ機能とは、複数のエフェクトバンドを合成して1つのディレイ回路とすることで、より長いディレイタイムを得ることができます。

- 21.** 長いディレイタイムを設定してみましょう。パッチ「9.11」を呼び出し、[EFFECT BAND 1] ボタンを押し、TIME COARS ツマミとTIME FINE ツマミで、ディレイタイムを最長の「595」msecに設定します。

- 22.** [GROUP] ボタンを押しながら[UP] ボタンを押しで「1-2」と設定します。

これでバンド1とバンド2が1つのディレイ回路としてグループ化されました。音を確認すると、ディレイタイムが長くなったことがわかります。TIME COARS ツマミを少し動かしてディレイタイムを確認すると、「143」(1430 msec)になっています。このようにしてグループを「1-8」に設定すると、ディレイタイムは最長で「589」(5890 msec)まで設定できます。

* グループ設定は、グループ先頭のエフェクトバンドを選んだ状態で、グループ最終のエフェクトバンドを指定して行ないます。



また、グループ設定をした場合、1つのディレイループから、グループを構成しているエフェクトバンドの個数分のディレイ出力が取り出すことができます。

- 23.** 先ほどの、バンド1とバンド2をグループ化した状態「1-2」で、確認してみましょう。[EFFECT BAND 2] ボタンを押ししてONにします。バンド1とバンド2は同じディレイタイムに設定されているため、原音と同じレベルのディレイ音が二つ同時に聞こえます。「タップ」の設定(13ページ)と同様にTAP ツマミを調整して、シャッフルのリズムを作ってみましょう。PAN ツマミを調整してピンポンディレイを作ることもできます。

「タップの設定」と違うのは、ここでディレイタイムを変えると、シャッフルのリズムのままテンポを変えることができることです。[EFFECT BAND 1] ボタンを押してから、TIME FINEツマミを動かして確認してみてください。

16ビート風ディレイであるパッチ“9.2.1”でも、リズムをキープしたままテンポを変えることができます。

* グループを設定した場合、TIME COARSE/FINE, FILTER LOW CUT/HIGH CUT, FEEDBACKツマミは、そのグループの一番小さい番号のエフェクトバンドでのみ設定可能となります。

シンク(SYNC)の設定

ディレイにモジュレーションをかけている場合、複数のバンド間でモジュレーションのスピードを同期させることができます。

24. パッチ“9.2.2”を呼び出します。

このパッチは、2バンドのディレイをそれぞれ左右に振って、まったく同じ(同期させた)モジュレーションをかけることで、モノラルコーラスの効果を出しています。このパッチでは、バンド2のモジュレーションをバンド1に同期させています。同期を解除(OFF)してみましょう。

25. エフェクトバンド2を選び、[SYNC] ボタンを押しながら[UP] ボタンを押して“2”に設定します。これはバンド2と同期、つまり他のバンドと同期しないという設定です。

この状態では、左チャンネルにはモジュレーションがかかっていますが、右チャンネルにはかかっていません。バンド2のSPEEDの設定が“00”だからです。もう一度同期を設定しましょう。

26. [SYNC] ボタンを押しながら[DOWN] ボタンを押して“1”に設定します。これでバンド1と同期しました。

同期させているとき、SPEEDツマミの機能は同期しているバンドとの位相のズレの設定になります。SPEEDツマミを動かすとステレオ感が出てきます。このときモジュレーションのスピードは同じです。位相のズレは、0°以上360°未満の範囲で設定できます。“50”で逆位相(180°)になります。“50”に設定しておいて、バンド1でSPEEDツマミを動かすと、逆位相の状態ですべて同時にスピードを変えることができます。

波形(WAVE)の設定

ディレイにモジュレーションをかけている場合、モジュレーションの波形を選ぶことができます。

27. パッチ“9.2.3”を呼び出します。

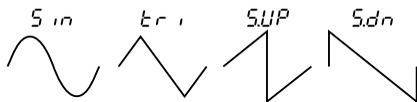
左チャンネルの音は音程がうねっています。これは、サイン(Sin)波の深いモジュレーションがかかっています。波形を変えてみましょう。

28. エフェクトバンド1を選び、[WAVE] ボタンを押しながら[UP] [DOWN] ボタンを押して、次の4種類の波形を比べてみましょう。

* [WAVE]+[UP]で“5”から“5UP” “5dn” “5t” “5r”と切り替わります。

[WAVE]+[DOWN]で“5”から“5r” “5dn” “5t” “5UP”と切り替わります。

- ・“5” サイン波(Sin)です。サイン波のカーブでピッチが上下します。
- ・“5t” 三角波(Triangle)です。一定のピッチで上下します。
- ・“5UP” のこぎり波のアップ(Saw Up)です。ピッチが上がります。
- ・“5dn” のこぎり波のダウン(Saw Down)です。ピッチが下がります。



モジュレーション波形は、同時に2種類の波形(サイン波ともう1種類)を使うことができます。ここで[EFFECT BAND 2] ボタンを押してバンド2をONにすると、右チャンネルからはサイン波のモジュレーション、左チャンネルからは別のモジュレーションがかかって聞こえます。

フェイズ(PHASE)の設定

ディレイ成分をダイレクト音にミックスする際に、正相/逆相を設定することができます。ダイレクト音に対して逆相でディレイ成分をミックスすると、音像の広がりに効果がある場合があります。

29. パッチ“9.2.2”を呼び出します。

エフェクトバンド1を選び、[FUNCTION] ボタンと[SYNC] ボタンを押しながら、[UP] [DOWN] ボタンを押して“rEv”(Reverse: 逆相)と“nor”(Normal: 正相)を切り替えて、音を聞いてみてください。

エフェクトとダイレクト音の音量設定

EFFECT LEVELツマミは、ディレイ成分の音量レベルを設定します。

DIRECT LEVELツマミは、ダイレクト音の音量レベルを設定します。

30. パッチ“921”を呼び出します。

EFFECT LEVELツマミを“0.0”、DIRECT LEVELツマミを“100”に設定してみてください。ダイレクト音しか聞こえません。

31. EFFECT LEVELツマミを“100”、DIRECT LEVELツマミを“0.0”に設定してみてください。ダイレクト音は聞こえず、ディレイ音だけが聞こえます。

この2つのツマミでダイレクト音とディレイ音の音量バランスを調節します。

* EFFECT LEVELツマミは、接続やグルーピングされたエフェクトバンドへの、入力信号の送りレベルを設定します。エフェクトバンドを選択していない状態でも設定可能です。

* DIRECT LEVELツマミは、エフェクトバンドを選択していない状態でも設定可能です。

ダイレクト音のパンの設定

DIRECT PANは、ダイレクト音のステレオでの定位を設定します。

32. パッチ“921”のまま、[FUNCTION]ボタンを押しながらDIRECT PANツマミを回して“L 100”に設定してみましょう。

ダイレクト音は左チャンネルからしか聞こえません。

* エフェクト音とダイレクト音を別々のスピーカーから出力する場合などに有効です。

* ツマミ位置中央(┌)で定位=中央、ツマミを左へ回すほど定位は左へ移動(L 00 ~ L 100)、右へ回すほど定位は右へ移動(r 00 ~ r 100)します。

* エフェクトバンドを選択していない状態でも設定可能です。

出力音量の設定

OUTPUTツマミで、UD-Stompの最終出力(OUTPUT端子、PHONES端子)の音量を調整します。

* エフェクトバンドを選択していない状態でも設定可能です。

これでUD-Stompのエフェクトバンドのパラメーターはひととおり説明しました。

オリジナルのエフェクトを作ったり、プリセットパッチを選んでエディットしたりしてみてください。

あなたが設定したセッティングは、別のパッチを選ぶと元の状態に戻ってしまいます。セッティング状態を保存しておきたい場合は、20ページのストア操作を行ってください。

パッチの選択と保存

パッチを切り替えてみよう

UD-Stompには、全部で180個のパッチプログラム(以下パッチと呼びます)がメモリーされています。

この180個のパッチは、2エリア、10グループ、3バンク、3パッチという構成になっています。

・エリア

ストア操作によりメモリー内容を自由に書き替えることができるユーザーエリア(90個)と、設定を変更して使えるがメモリー内容の書き替えはできないプリセットエリア(90個)の2つがあります。

プリセットエリアが選択されている場合は、ディスプレイの100の位の右下にドットが表示されます(011~933)。ドット表示がない場合(011~933)は、ユーザーエリアが選択されていることを表わしています。

・工場出荷時、プリセットエリアとユーザーエリアには同じパッチデータが入っています。(別紙「パッチリスト」参照)

・グループ

各エリアの90個のパッチは、10のグループ(0~9)に分かれています。

・バンク

グループは、それぞれ3つのバンク(1~3)に分かれています。

・パッチ

1つのバンクには、3つのパッチ(1~3)が入っています。

さあ、それではパッチを切り替えて、いろいろなサウンドを試してみよう。

パッチの切替には、次の3通りの方法があります。

パネルの[UP][DOWN]ボタンで行なう方法

- ・[UP] ボタンを1回押すごとに1つ次のパッチが呼び出されます。

```
011 012 013 021 022  
023 033 111.....933 011  
012.....933 011(元に戻る)..
```

- [DOWN] ボタンを1回押すごとに1つ前のパッチが呼び出されます。

- ・[UP] ボタンを押し続けると、グループ番号が1ずつ増えます。

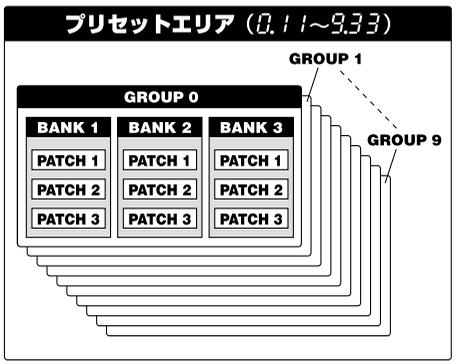
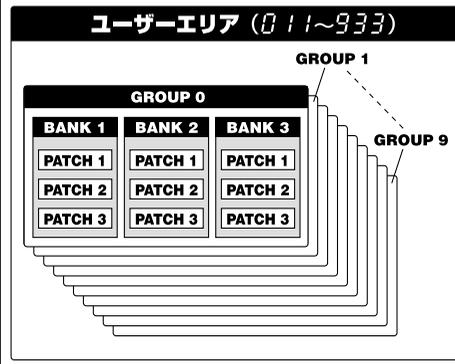
```
011 111 211.....911 011  
111 211.....911 011(元に戻る)..
```

- [DOWN] ボタンを押し続けると、グループ番号が1ずつ減ります。

- ・[UP] ボタンと[DOWN] ボタンを同時に押すと、ユーザーエリア プリセットエリアを切り替えることができます。

```
011 011
```

・パッチの構成



フットスイッチ、BANKスイッチで行なう方法

- ・フットスイッチ1～3を押すと、現在のグループ/バンクで、押したフットスイッチの数字のパッチ1～3が呼び出されます。
- ・BANKスイッチをしばらく踏んでフットスイッチ1～3のランプがすべて点灯した状態になったら、スイッチから足を離します。以下、この状態での操作です。
 1. フットスイッチ1を1秒以上押し続けると、ユーザーエリア プリセットエリアを切り替えることができます。
 2. フットスイッチ2を1秒以上押し続けると、グループ番号が1ずつ減ります
 3. フットスイッチ3を1秒以上押し続けると、グループ番号が1ずつ増えます。
 4. フットスイッチ1～3を押すと、押したフットスイッチの数字のバンク1～3が呼び出されます。
 5. バンクを選択すると、ディスプレイとフットスイッチのランプが速く点滅した状態になります。この状態でフットスイッチ1～3を押すと、押したフットスイッチの数字のパッチ1～3が呼び出され、プレイモードに戻ります。

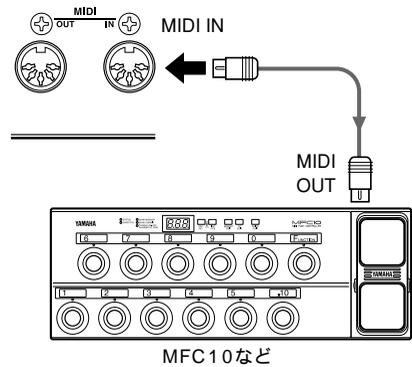
* パッチ選択を中断したい場合は、BANKスイッチを押します。元の状態に戻ります。

MIDIコントロールで行なう方法

ヤマハMIDIフットコントローラーMFC10などの外部MIDI機器からMIDIプログラムチェンジを送信することで、UD-Stompのパッチを切り替えることができます。

1. UD-StompのMIDI IN端子と外部MIDI機器のMIDI OUT端子とをMIDIケーブルで接続します。

* MIDIケーブルはMIDI規格のものをお使いください。また、MIDIケーブルは15mが限度とされています。これ以上長いケーブルの使用は、誤動作などトラブルの原因となります。



2. UD-StompのMIDI受信チャンネルを外部MIDI機器のMIDI送信チャンネルに合わせます。

24ページ『MIDI受信チャンネルの設定』

3. プログラムチェンジャー*を作成します。
(プログラムチェンジNo. : パッチNo.の初期値は、1 : 011, 2 : 012.....128 : 4.12)

24ページ『プログラムチェンジャーの作成』

* たとえば『プログラムチェンジャー“1”を受信したらUD-Stompのパッチナンバー“113”をリコールする』といったように、受信したプログラムチェンジャーに対応させるパッチナンバーを指定する作業です。

4. 外部MIDI機器からプログラムチェンジャーを送信すると、作成したプログラムチェンジャーに従ったパッチが選ばれます。

* プログラムチェンジャーの送信のしかたについては、外部MIDI機器の取扱説明書などをご覧ください。

パッチを保存しよう(ストア)

ユーザーエリア(011~933)には、オリジナルのセッティングを保存(ストア)しておくことができます。気に入ったサウンドができたなら、そのセッティングを保存しておきましょう。

保存(ストア)の手順

1. [STORE] ボタンを押します。
ストアモードに入り、ディスプレイと[STORE]ランプ、パッチ番号と同じ番号のフットスイッチのランプが点滅します。
2. ストア先のパッチ(グループ、バンク、パッチ番号)を選びます。
パッチの選び方は、『パッチを切り替えてみよう』(18ページ)と同様です。[UP][DOWN]ボタンでもフットスイッチ、BANKスイッチでもOKです。ただし、エリアの切り替えはできません(ユーザーエリアに固定)。
3. ストア先のパッチを選んだら、[STORE] ボタンを押し続けます。
すべてのランプが点灯したら、ストア完了です。

* ストア操作を中断したい場合は、[STORE]スイッチを押してすぐに離します。元の状態に戻ります。

* ユーティリティモードの各種設定は、個々のパッチには保存されません。各パッチ共通の設定として、UD-Stomp本体に保存されます。

* OUTPUTツマミの設定は保存されません。

* ユーザーエリア(011~933)のデータは、外部MIDI機器に保存することができます。(25ページ)

* ストア動作中は、MIDIの受信はできません。

新しいパッチを作ってストアするだけでなく、ライブで使う順番にパッチを並べ替えたりする場合も、このストア操作を行えば便利です。

便利な機能

UD-Stompを使う上で、便利な機能を紹介します。

ディレイタイムをフットスイッチで設定する(タップテンポ)

UD-Stompでは、ディレイタイムパラメーターを、フットスイッチを踏む時間間隔で設定することができます。

1. ディスプレイに“*t R P*”と表示されるまで、BANKスイッチを踏み続けます。
2. フットスイッチ1を踏んで、ディレイタイムを設定するエフェクトバンドを選択します。



* グループを組んでいる場合は、グループの先頭のバンドしか選択できません。パネル上の「EFFECT BAND 1~8」により、グループ先頭以外のバンドを選択した場合、タップテンポの設定はできません。

3. フットスイッチ2で、選択したエフェクトバンドのON/OFFを設定します。

* エフェクトバンドのON/OFFは、エフェクトの入力側/出力側2つのスイッチで行ないます。



・現在選択中のエフェクトバンドがOFFの場合は、フットスイッチ2を踏むとSW1, SW2共にONになり、エフェクトバンドがONになります(フットスイッチ2ランプ点灯)。

・現在選択中のエフェクトバンドがONの場合は、フットスイッチ2を踏むとSW1のみOFF, SW2はONのままになります(フットスイッチ2ランプ点滅)。このため、フットスイッチ2を踏むまでのディレイ成分は残り、それ以降の入力信号にはディレイはかかりません。

・現在選択中のエフェクトバンドがSW1のみOFFの場合は、フットスイッチ2を踏むとSW1がONになります。このため、SW1, SW2共にONになり、エフェクトバンドがONになります(フットスイッチ2ランプ点灯)。

・エフェクトバンドをOFFにするには、パネル上の「EFFECT BAND 1~8」ボタンを押し続けます。

4. 設定したいディレイタイムの間隔で、フットスイッチ3を踏むと、ディレイタイムが設定されます。

* この手順4の状態では、フットスイッチ3を踏むたびにディレイタイムは書き換えられます。

5. BANKスイッチを踏むとプレイモードに戻ります。

ループサンプリング

UD-Stompでは、演奏(入力信号)をサンプリングして、ループ再生させることができます。(ディレイ音を減衰させずに、フィードバックを無限にかける)

1. ディスプレイに“*t R P*”と表示されるまで、BANKスイッチを踏み続けます。
2. フットスイッチ1を踏んで、十分なディレイタイム設定レンジを持つエフェクトバンドを選択します。

* グループを組んでいる場合は、グループの先頭のバンドしか選択できません。パネル上の「EFFECT BAND 1~8」により、グループ先頭以外のバンドを選択した場合、ループサンプリングはできません。

3. ディスプレイに“*t S ?*”と表示されるまで、フットスイッチ2を踏み続けます。表示が点滅し、ループサンプリングのスタンバイ状態(ディレイタイム最大、SW1=OFF、SW2=ON、RAMクリア)になります。

4. フットスイッチ3を踏む(SW1=ON)とサンプリングが開始され、スイッチを離すとサンプリングが終了(SW1=OFF、FEEDBACK=10)します。

スイッチを踏んでいた時間がディレイタイムに設定され、サンプリングされた演奏がループ再生されます。

* サンプリング時間がディレイタイム設定レンジを超えた場合は、サンプリングは無効となります。

5. 重ねてサンプリング(ミックス)する場合は、フットスイッチ2を踏んでフットスイッチ2のランプを点灯させた状態(SW1=ON)で、サンプリング音に合わせて演奏します。もう一度フットスイッチ2を踏むと終了します。

6. サンプリングの再生を終了する場合は、ディスプレイに“*t S ?*”と表示されるまでフットスイッチ2を踏み続けた(サンプリングをクリア)後、BANKスイッチを踏むとプレイモードに戻ります。

- * 一時的にサンプリングを止める場合はBANKスイッチを踏んでバイパス状態にします。もう一度BANKスイッチを踏むとサンプリングを引き続き再生できます。
- * パネル上のFEEDBACKツマミを絞るか、選択している[EFFECT BAND 1~8]ボタンを押してOFFにしてもサンプリングはクリアされます。
- * 以下のプリセットパッチは、ループサンプリング用に設定されたサンプルになっています。
 - 9.31 8バンドを使った最長のサンプリング
 - 9.32 エフェクトバンド1~7を使ってサンプリング。エフェクトバンド8で入力音にディレイをかける。
 - 9.33 エフェクトバンド1~7を使ってサンプリング。エフェクトバンド8でサンプリング音と入力音の両方にディレイをかける。

コピー/ペスト機能

エディット中のエフェクトバンドの、ツマミのパラメーター値をコピーして、別のエフェクトバンドにコピーする機能です。

複数のエフェクトバンド間で同じパラメーター設定をする場合などに便利な機能です。

1. コピー元のパラメーターを設定します。
エフェクトバンドを選び、値を設定します。
2. [FUNCTION] ボタンを押しながら[CONNECT] ボタンを押します(ディスプレイに「COPY」と表示)。これでコピーされました。
3. コピー先のエフェクトバンドを選びます。
[FUNCTION] ボタンを押しながら[GROUP] ボタンを押します(ディスプレイに「PST」と表示)。ペストが実行され、コピー先に指定したエフェクトバンドのツマミのパラメーターが、すべて手順1で選んだエフェクトバンドのパラメーター値に書き替えられました。

フットペダル(コントローラー)を使う

EXP. PEDAL端子にヤマハFC-7などのフットコントローラー(エクスペッションペダル(別売)などを接続して、UD-Stompのエフェクトのパラメーター(設定値)を足元でコントロールすることができます。

23ページ『外部コントロールの設定』

外部MIDI機器でUD-Stompをコントロールする

外部MIDI機器のMIDI OUT端子とUD-StompのMIDI IN端子をMIDIケーブルで接続して、外部MIDI機器からUD-Stompのエフェクトのパラメーター(設定値)をコントロールすることができます。

23ページ『外部コントロールの設定』

ファクトリープリセットの方法

[UP]と[UTILITY]のボタンを押しながら電源スイッチをON(ON)にすると、ファクトリープリセットが実行され、ユーザーエリアの内容はすべて別紙『パッチリスト』の内容に書き換えられます。

ファクトリープリセットを実行すると、あなたがストアしたパッチ内容はすべて消えてしまいます。必要なデータはあらかじめ外部MIDI機器に保存したり、セッティングをメモすることをお勧めします。

外部コントロールの設定

エフェクトの各パラメーターの調整を、本体パネル上のアサインابلコントローラー (ASSIGNABLE CONTROL) にアサインして行なうことができます。また、同様のコントロールを、EXP. PEDAL端子に接続したヤマハFC-7などのフットコントローラー(エクスペディションペダル) 別売) MIDI IN端子に接続したMIDI機器からも行なうことができます。

* 文中では、[EFFECT BAND 1] ボタンを[BAND 1] ボタンのように省略して表記します。

設定手順

1. プレイモードで[FUNCTION]と[WAVE] ボタンを同時に押します。

外部コントロール設定モードに入り、ディスプレイに“[]”と表示されます。

2. [BAND 1] ボタンを押します。
ディスプレイにはコントロール番号が表示されます。

[UP][DOWN] ボタンでコントロール番号を設定します。

UD-Stompでは外部コントロールの設定を8つ(コントロール番号: 1~8)まで記憶しておくことができるので、8種類のコントローラーを使って異なるパラメーターをコントロールしたり、1つのコントローラーで8種類のパラメーターをコントロールするなどでできます。

3. [BAND 2] ボタンを押します。
ディスプレイにはコントローラーの種類が表示されます。

[UP][DOWN] ボタンでコントローラーの種類を設定します。

- *EXP*: EXP. PEDAL端子に接続したフットコントローラーでコントロールする場合。
- *ACC*: 本体パネル上のアサインابلコントローラー(ASSIGNABLE CONTROL)でコントロールする場合。
- *1-31, 64-95*: MIDI IN端子に接続した外部MIDI機器からのコントロールチェンジでコントロールする場合。そのコントロールチェンジ番号を選びます。(MIDIコントロールチェンジ番号については、外部MIDI機器の取扱説明書をご覧ください。)

4. [BAND 3] ボタンを押します。
ディスプレイにはパラメーターの種類が表示されます。数字表示は、エフェクトバンドを示します。

[UP][DOWN] ボタンでコントロールするパラメーターを設定します。

- *OFF*: オフ(コントロールしない)

- *t1-t8*: TIME(ディレイタイム)
- *LF1-LF8*: LOW CUT FILTER
- *HF1-HF8*: HIGH CUT FILTER
- *Fb1-Fb8*: FEEDBACK
- *tP1-tPB*: TAP
- *SP1-SP8*: SPEED
- *dP1-dPB*: DEPTH
- *Pn1-Pn8*: PAN
- *LE1-LE8*: LEVEL
- *EFL*: EFFECT LEVEL
- *dL*: DIRECT LEVEL
- *dP*: DIRECT PAN

手順3で設定したコントローラーで、このパラメーター(設定値)をコントロールすることができます。

* TIMEはツマミで設定したディレイタイムに対して0~100%で設定され、ツマミ自体のパラメーター値は変更されません。このため、ストアしてもTIMEの設定値は変わりません。

* TIME以外のパラメーターはツマミの設定値を変更するため、コントローラーでパラメーター変更後にストアを実行すると、データが書き替えられます。

5. [BAND 4] ボタンを押します。
ディスプレイにはパラメーターの変可最小値(コントローラーを最小に設定したときのパラメーターの値)が表示されます。

[UP][DOWN] ボタンで値を設定します。

6. [BAND 5] ボタンを押します。
ディスプレイにはパラメーターの変可最大値(コントローラーを最大に設定したときのパラメーターの値)が表示されます。

[UP][DOWN] ボタンで値を設定します。

7. [FUNCTION] ボタンを押すと、プレイモードへ戻ります。

この外部コントロール設定は、パッチデータに含まれます。

またユーティリティモードにおいて、パッチデータでの設定に関係なく常にユーティリティモードの外部コントロールをON(有効) または常に外部コントロールをOFFに設定する機能もあります。(25ページ)

ユーティリティモード

ユーティリティモードでは、フットスイッチやMIDI、外部コントロール、EXP. PEDAL端子などの、UD-Stompのシステム全体に関する設定を行ないます。

* 文中では、[EFFECT BAND 1] ボタンを[BAND 1] ボタンのように省略して表記します。

ユーティリティモードについて

プレイモードでUTILITY ボタンを押す(ランプ点灯)ことで、ユーティリティモードに入ります。ユーティリティモードでUTILITY ボタンを押す(ランプ消灯)と、プレイモードに戻ります。

ユーティリティモードでは、MIDIの受信はできません。MIDI受信による操作はプレイモードで行なってください。

ユーティリティモードでは、以下の3つの機能を設定できます。それぞれの機能の切り替えは、[UP][DOWN] ボタンで行ないます。

- ・ MIDI機能 (MIDI)
- ・ 外部コントロール設定 (CTL)
- ・ EXPペダル設定 (EXP)

MIDI機能

[UTILITY] ボタンを押した後、[UP][DOWN] ボタンを押してディスプレイに "MIDI" を表示させます。その後、[STORE] ボタンを押すことでMIDI機能の設定モードに入ります。

MIDIプログラムチェンジ受信テーブルの作成
受信したMIDIプログラムチェンジNo.(以降PRG No.)に対して、UD-Stompのどのパッチを呼び出すかを設定します。

[BAND 1] ボタンを押して受信MIDI PRG No.を設定します。[UP][DOWN] ボタンで選択します。

- ・ 1 ~ 128 : MIDIプログラムチェンジNo.

[BAND 2] ボタンを押してUD-Stompのパッチ番号を設定します。プレイモードでのパッチ選択と同様、[UP][DOWN] ボタンまたはフットスイッチで選択します。

- ・ 011~933, 011~933 :
呼び出すパッチの番号

MIDIプログラムチェンジ送信テーブルの作成
フットスイッチ1~3を押してパッチを呼び出した時に、MIDI OUT端子からMIDIプログラムチェンジ(No.)を送信して、外部エフェクターなどをコントロールすることができます。どのパッチを呼び出したときに、何番のMIDI PRG No.を送信するかを設定します。

- * MIDIプログラムチェンジでパッチを呼び出した場合には、MIDI PRG No.は送信されません。

[BAND 3] ボタンを押してUD-Stompのパッチ番号を設定します。プレイモードでのパッチ選択と同様、[UP][DOWN] ボタンまたはフットスイッチで選択します。

- ・ 011~933, 011~933 :
呼び出されたパッチの番号

[BAND 4] ボタンを押して送信MIDI PRG No.を設定します。[UP][DOWN] ボタンで選択します。

- ・ 1 ~ 128 : MIDIプログラムチェンジNo.

MIDI受信チャンネルの設定
UD-StompのMIDI受信チャンネルを設定します。ここで設定されたMIDIチャンネルがバルクレスリーブ時のデバイスNo.になります。

[BAND 5] ボタンを押し、[UP][DOWN] ボタンで、MIDI受信チャンネルを設定します。

- ・ 1 ~ 16 : 受信するMIDIチャンネル
- ・ ALL : 全チャンネルのMIDIを受信します。
- ・ OFF : MIDIを受信しません。

MIDI送信チャンネルの設定
UD-StompのMIDI送信チャンネルを設定します。ここで設定されたMIDIチャンネルがバルクアウト時のデバイスNo.になります。

[BAND 6] ボタンを押し、[UP][DOWN] ボタンで、MIDI送信チャンネルを設定します。

- ・ 1 ~ 16 : 送信するMIDIチャンネル

MIDIマージのON/OFF設定
UD-StompのMIDI IN端子に入力されたMIDI信号をそのままMIDI OUT端子にも出力するか、出力しないかを設定します。

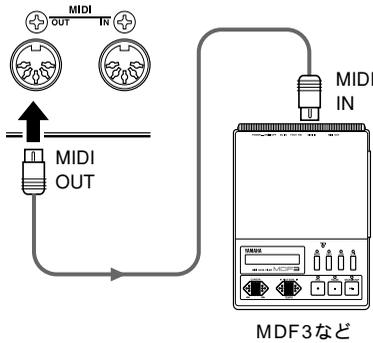
[BAND 7] ボタンを押し、[UP] [DOWN] ボタンで、マージを設定します。

- ・ *on* : MIDI OUTに出力します。
- ・ *off* : MIDI OUTに出力しません。
- ・ マージon時のMIDI OUT出力は、MIDI受信チャンネルの設定とは関係なく出力されます。

MIDIバルクアウトの実行

UD-Stompのユーザーエリアデータおよびユーティリティモードでの設定を、ヤマハMDF3などのMIDIデータを保存できる装置に送信して、バックアップをとることができます。

UD-StompのMIDI OUT端子と外部MIDI機器のMIDI IN端子とを、MIDIケーブルで接続します。



全ユーザーエリアデータ(011~933)+ユーティリティ設定を、バルクアウトする場合は、[BAND 8] ボタンを押し(ディスプレイに"*ALL*"と表示)、[STORE] ボタンを押すとMIDIバルクアウトが実行されます。

ユーザーエリアデータの1つを選んでバルクアウトする場合は、[CONNECT] ボタンを押した後、バルクアウトするパッチ番号を設定します。プレイモードでのパッチ選択と同様、[UP] [DOWN] ボタンまたはフットスイッチで選択します。選択後[STORE] ボタンを押すと1パッチのMIDIバルクアウトが実行されます。

- ・ 送信完了後、パッチ番号選択状態に戻ります。

MIDIバルクインについて

ヤマハMDF3などのMIDI装置にバックアップしておいたデータを、UD-Stompに戻す操作です。

外部MIDI機器のMIDI OUT端子とUD-StompのMIDI IN端子とを、MIDIケーブルで接続します。

外部MIDI機器側でバルクアウトを実行すると、UD-Stompはバルクデータを受信します。

- ・ MIDIバルクインは、UD-Stompのプレイモードで行なってください。

MIDIバルクインを実行すると、ユーザーエリアのパッチ内容は書き換えられてしまいます。よくご確認の上で、バルクインを実行してください。

外部コントロール設定

23ページ『外部コントロールの設定』と同様に、アサインブルコントローラ(ASSIGNABLE CONTROL) またはEXP. PEDAL端子に接続したフットコントローラ、MIDI IN端子に接続したMIDI機器から、UD-Stompのエフェクトの各パラメーターをコントロールするための設定です。

外部コントロールの動作モードの設定

[UTILITY] ボタンを押した後、[UP] [DOWN] ボタンを押してディスプレイに"*Ctrl*"を表示させます。その後、[STORE] ボタンを押すことで外部コントロールの動作モードの設定状態になります。[BAND 1] ボタンを押し、[UP] [DOWN] ボタンで、外部コントロールの動作モードを設定します。

- ・ *PrG* : パッチに設定されている外部コントロール設定が有効になります。
- ・ *Ctrl* : 常にユーティリティモードでの外部コントロール設定が有効になります。
- ・ *off* : 常に外部コントロールはOFF。

以下の5つの設定は、上記動作モードが"*Ctrl*"に設定されている場合のみ設定可能です。

外部コントロール番号の設定

[BAND 2] ボタンを押し、[UP] [DOWN] ボタンで、コントロール番号(*1~8*)を設定します。

- ・ 『外部コントロールの設定』(23ページ)参照。

外部コントローラーの設定

[BAND 3] ボタンを押し、[UP] [DOWN] ボタンで、コントローラーの種類(*RC, EP, 1~3, 1, 5, 4~95*)を設定します。

- ・ 『外部コントロールの設定』(23ページ)参照。

コントロールするパラメーターの設定

[BAND 4] ボタンを押し、[UP] [DOWN] ボタンで、コントロールするパラメーター(*011~*)を設定

ユーティリティモード

定めます。

* 『外部コントロールの設定』(23ページ)参照。

パラメーターの可変最小値設定

[BAND 5] ボタンを押し、[UP] [DOWN] ボタンで、パラメーターの可変最小値(コントローラーを最小に設定したときのパラメーターの値)を設定します。

* 『外部コントロールの設定』(23ページ)参照。

パラメーターの可変最大値設定

[BAND 6] ボタンを押し、[UP] [DOWN] ボタンで、パラメーターの可変最大値(コントローラーを最大に設定したときのパラメーターの値)を設定します。

* 『外部コントロールの設定』(23ページ)参照。

EXPペダル設定

外部コントロール設定(23ページ)でコントローラーに“*EXP*”EXPペダルを選択している場合に有効な設定です。

[UTILITY] ボタンを押しした後、[UP] [DOWN] ボタンを押ししてディスプレイに“*EXP*”を表示させます。その後、[STORE] ボタンを押すことでEXPペダルの設定モードに入ります。

EXPペダル最小値設定

EXPペダルが最小値を示すポジションを設定します。

[BAND 1] ボタンを押し、[UP] [DOWN] ボタンで、ポジション(*0* ~ *128*)を設定します。

[BAND 1] ボタンを押しながらEXPペダルを動かすことでも設定できます。

* 最大値との関係で分解能が128未満には設定できません。

EXPペダル最大値設定

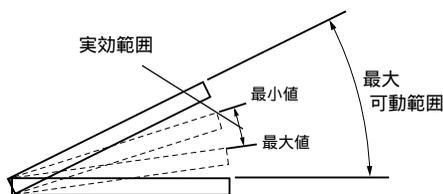
EXPペダルが最大値を示すポジションを設定します。

[BAND 2] ボタンを押し、[UP] [DOWN] ボタンで、ポジション(*127* ~ *255*)を設定します。

[BAND 2] ボタンを押しながらEXPペダルを動かすことでも設定できます。

* 最小値との関係で分解能が128未満には設定できません。

* EXPペダルスイッチの設定値以上には設定できません。



EXPペダル送信コントロールチェンジNo.
EXPペダル操作時に送信するMIDIのコントロールチェンジ番号を設定します。

[BAND 3] ボタンを押し、[UP] [DOWN] ボタンで設定します。

・ *OFF* : MIDIを送信しません。

・ *1* ~ *32*, *64* ~ *95* :

送信するコントロールチェンジ番号

エラーメッセージ

UD-Stompにエラーが発生した場合、ディスプレイに次のエラーメッセージNo.が表示されます。操作を一時中断し、それぞれの対処方法に従ってください。

E 1: MIDI受信バッファフル

- 【原因】 受信したMIDIデータがバッファからあふれました。
- 【対処方法】 送信データを減らすか、バルク送信の間隔を開けて再送信してください。

E 2: 通信エラー

- 【原因】 MIDI通信時に異常が起きました。
- 【対処方法】 接続などの異常がないか確認して、再度送信してください。

E 3: バルク受信チェックサムエラー

- 【原因】 バルクダンプ受信時にデータのチェックサムが合いません。
- 【対処方法】 接続や送信データを確認して再度送信してください。

E 4: バルク受信データ異常

- 【原因】 バルクダンプ受信時にデータに異常があります。
- 【対処方法】 接続や送信データを確認して再度送信してください。

E 5: バックアップバッテリーエラー

- 【原因】 バックアップバッテリーが消耗してきました。
- 【対処方法】 そのままご使用を続けると内部のデータが消えてしまいます。お買い上げの楽器店または巻末のヤマハ電気音響製品サービス拠点にバックアップバッテリーの交換をお申し付けください。

故障かな?と思ったら

音が出ない

- 電源アダプターは正しく接続されていますか？
- INPUT端子に接続した楽器のボリュームは上がっていますか？
- EFFECT LEVELツマミ、DIRECT LEVELツマミが 0 になっているいませんか？
- OUTPUTツマミが 0 になっているいませんか？
- EXPペダルでボリュームをコントロールしている場合は、ペダルを踏み込んでみてください。

エフェクトがかからない

- LEVELツマミが 0 になっているいませんか？
- EFFECT LEVELツマミが 0 になっているいませんか？
- TIMEの設定が 0 になっているいませんか？
- フットスイッチ(BANK)でバイパスがON(BANKランプ点灯)になっていませんか？
- フットスイッチ(1, 2, 3)でエフェクトがOFF(パッチ番号のランプ消灯)になっていませんか？
- EXPペダルでパラメーターをコントロールしている場合は、ペダルを踏み込んでみてください。

ツマミを回しても音が変わらない

- ディスプレイの数値が変わるまで、ツマミを回してから設定してください。(12ページ)
- エフェクトバンドを選んでいませんか？エフェクトバンドボタン1~8を押してエフェクトバンドを選んでから、ツマミを回して設定してください。(12ページ)

MIDIの送信ができない

- 受信側の機器との間でMIDIチャンネルが合っていますか？(24ページ)
- MIDIマージがOFFに設定されていませんか？(24ページ)

MIDIの受信ができない

- UD-Stompはプレイモードになっていますか？プレイモードにして、受信をやり直してください。
- UD-StompのMIDI受信チャンネルがOFFに設定されていませんか？(24ページ)

仕様

デジタル部

- ・8バンドディレイ(Delay Time : 696msec max./1band)
- ・Delay Time, Loop Filter(High Cut, Low Cut) Feedback, Tap, Pan, Levelパラメーターをエフェクトバンドごとに設定可能
- ・エフェクトバンドの接続(直列、並列)可能
- ・エフェクトバンドのグループ化可能
 - ・ Delay Time最大5890msec)
 - ・グループを構成するエフェクトバンドの数だけディレイ出力可能
- ・タップテンボ機能(ディレイタイム)
- ・ループサンプリング機能
- ・エフェクトバンドごとにモジュレーション(Speed, Depth)を設定可能
 - ・同時に2種類のモジュレーション波形を設定可能(Sin + Triangle/Saw up/Saw down)
 - ・エフェクトバンド間でのモジュレーションの同期が可能

MIDI機能

- 受信 Program Change(Program Change Table 作成可), Control Change, Bulk In
- 送信 Program Change, Control Change, Bulk Out, Merge Out

コントローラー/スイッチ

トップパネル

- プッシュスイッチ×17
UP, DOWN, UTILITY, STORE, EFFECT BAND (1 ~ 8), CONNECT, GROUP, SYNC, WAVE, FUNCTION

ツマミ×14

- ASSIGNABLE CONTROL, TIME COARSE, TIME FINE, LOW CUT FILTER, HIGH CUT FILTER, FEEDBACK, DIRECT LEVEL/PAN, TAP, SPEED, DEPTH, PAN, LEVEL, EFFECT LEVEL, OUTPUT

フットスイッチ×4

- 1, 2, 3, BANK

リアパネル

- STAND-BY ON/OFF, INPUT LOW/HIGH

ディスプレイ

- 7セグメントLED(3ケタ)×1
プッシュスイッチLED×17
フットスイッチ用LED×4

接続端子

- INPUT : 標準フォンモノジャック
OUTPUT L/MONO, R : 標準フォンモノジャック
PHONES : 標準フォンステレオジャック
EXP. PEDAL : 標準フォンステレオジャック
DIGITAL OUT : COAXIAL (Sampling Rate : 44.1kHz)
MIDI IN, MIDI OUT : 5 pin DIN

A/Dコンバーター

- 20ビット+3ビットフローティング

D/Aコンバーター

- 20ビット

サンプリング周波数 44.1 kHz

メモリー数 プリセット : 90
ユーザー : 90

入力レベル/インピーダンス

- INPUT HIGH : - 25dBm/1 M
INPUT LOW : - 15dBm/1 M

出力レベル/インピーダンス

- OUTPUT L/MONO, R : 0dBm/1 k
PHONES : 0dBm/47 (47 負荷時)

電源

- 専用電源アダプター(AC-10)
入力 : AC 100V, 50/60 Hz
出力 : AC12V, 1000mA

消費電力

15 W

寸法(W x H x D) 280 x 70 x 184 mm

重量

2.2 kg

付属品

- 電源アダプター(AC-10)
取扱説明書(本書)

* 仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

ファンクション...	送信	受信	備考
ベーシック チャンネル	電源ON時 設定可能範囲	1 - 16 1 - 16	電源オフ後も記憶可能 (送受信共通)
モード	電源ON時 メッセージ 代用	1, 3 X *****	電源オフ後も記憶可能
ノート ナンバー	音域	X *****	
ベロシティ	ノート・オン ノート・オフ	X X	
アフター タッチ	キー別 チャンネル別	X X	
ピッチベンド		X	
コントロール チェンジ	0 1 - 31 32 - 63 64 - 95 95 - 127	X O X O X	

MIDIインプリメンテーションチャート

プログラム チェンジ	設定可能範囲	0 0 - 127 *****	0 0 - 127		
システム エクスクルーシブ		0	0		バルクダンプ
システム コモン	ソングポジション ソングセレクト チューン	x x x	x x x		
システム リアルタイム	クロック コマンド	x x	x x		
AUX	オールサウンドオフ リセットオールコントロール ローカルON/OFF オールノートオフ	x x x x	x x x x		
メッセージ	アクティブセンシング リセット	0 x	x x		

o : あり
x : なし

モード2 : オムニ・オン、モノ
モード4 : オムニ・オフ、モノ

モード1 : オムニ・オン、ポリ
モード3 : オムニ・オフ、ポリ

サービスについて

1. 保証期間

本機の保証期間は、ご購入(保証書による)より満1ヶ年(現金・クレジット・月賦等による区別はございません。また保証は日本国内でのみ有効)と致します。

2. 保証期間中のサービス

保証期間中に万一故障が発生した場合、お買い上げ店にご連絡頂きますと、技術者が修理・調整致します。この際必ず保証書をご提示ください。保証書なき場合にはサービス料金を頂く場合もあります。

また、お買い上げ店より遠方に移転される場合は、事前にお買い上げ店あるいは下記のヤマハ電気音響製品アフターサービス拠点にご連絡ください。移転先におけるサービス担当店をご紹介申し上げますと同時に、引続き保証期間中のサービスを責任をもって行なうよう手続き致します。

3. アフターサービス

満1ヶ年の保証期間を過ぎますとサービスは有料となりますが、引き続き責任をもってサービスをさせていただきます。そのほか不明の点などございましたら、お買い上げ店あるいは下記のヤマハ電気音響製品アフターサービス拠点までお問い合わせください。

4. 摩耗部品の交換について

本機には使用年月とともに性能が劣化する摩耗部品(下記参照)が使用されています。摩耗部品の劣化の進行度合いは、使用環境や使用時間などによって大きく異なります。本機を未永く安定してご愛用頂くためには、定期的に摩耗部品を交換されることをお勧めします。摩耗部品の交換は、お買い上げ店またはヤマハ電気音響製品アフターサービス拠点へご相談ください。

摩耗部品の一例

ポリウムコントロール、スイッチ、リレー類、入出力ジャック、接続端子など

ヤマハ電気音響製品アフターサービス拠点

(修理受付および修理品お持込み窓口)

北海道サービスステーション	〒064-8543	札幌市中央区南10条西1丁目1-50 ヤマハセンター内	TEL (011) 512-6108
仙台サービスステーション	〒984-0015	仙台市若林区卸町 5-7 仙台卸商共同配送センター3F	TEL (022) 236-0249
首都圏サービスセンター	〒143-0006	東京都大田区平和島2丁目1番1号 京浜トラックターミナル内	14号棟A-5F TEL (03) 5762-2121
浜松サービスステーション	〒435-0016	浜松市和田町 200 ヤマハ(株)和田工場6号館2階	TEL (053) 465-6711
名古屋サービスセンター	〒454-0058	名古屋市中川区玉川町 2-1-2 ヤマハ(株)名古屋流通センター3F	TEL (052) 652-2230
大阪サービスセンター	〒565-0803	吹田市新芦屋下 1-16 ヤマハ(株)千里丘センター内	TEL (06) 6877-5262
四国サービスステーション	〒760-0029	高松市丸亀町 8-7 (株)ヤマハミュージック神戸 高松店内	TEL (087) 822-3045
広島サービスステーション	〒731-0113	広島市安佐南区西原 6-14-14	TEL (082) 874-3787
九州サービスステーション	〒812-8508	福岡市博多区博多駅前 2-11-4	TEL (092) 472-2134

[本社] CSセンター 〒435-0016 浜松市和田町 200 ヤマハ(株)和田工場6号館2階 TEL (053) 465-1158

ヤマハ株式会社 各営業所 (商品に関する問い合わせ先)

弦打楽器事業部	〒430-8650	浜松市中沢町10番1号	TEL (053) 460-2433
EM営業統括部			
EM北海道	〒064-8543	札幌市中央区南10条西1丁目1-50 ヤマハセンター内	TEL (011) 512-6113
EM仙台	〒980-0804	仙台市青葉区大町2-2-10	TEL (022) 222-6147
EM東京	〒108-8568	東京都港区高輪2-17-11	TEL (03) 5488-5471
EM名古屋	〒460-8588	名古屋市中区錦1-18-28	TEL (052) 201-5199
EM大阪	〒542-0081	大阪市中央区南船場3-12-9 心斎橋ブラザビル東館	TEL (06) 6252-5231
EM九州	〒812-8508	福岡市博多区博多駅前2-11-4	TEL (092) 472-2130
企画推進室	〒108-8568	東京都港区高輪2-17-11	TEL (03) 5488-5445

住所及び電話番号は変更になる場合があります。

ヤマハ株式会社

弦打楽器事業部 ギタードラム営業部 国内営業課
〒430-8650 静岡県浜松市中沢町10番1号 053-460-2433